

フロイディッヒ・フリューゲル
Freudig.Flügel

23年
5月号

2011年5月13日
編集・発行／大正会館内
大正フロイデ：西風 勝

-大正第九の由縁である大阪俘虜収容所の移転先「似島」初訪問



富士山に似た「似島」全景を望む



菩提樹の幼木と！

鳴門のNPO法人ドイツ村
「坂東俘虜収容所」

俘虜収容所研究会の皆さまと

四月二十三日、私達一大隊俘虜收容所研究会「メンバーと收容所再発見者で写真家の藤井寛氏を乗せた車が大家正区を出発したのは朝の六時でした。広島市公文書館の池本さんとの懇談後、向った宇品港（広島港）は軍都であつた広島島の玄関港として栄え、日露戦争などから帰還者を港送りの似島で検疫をした後、宇品港から国鉄によつて全国に運ばれた、いわば日本の玄関口でもありました。

似島は、本當に富士山に似た美しい島で、現在では広島市の少年野外活動のメッカとして賑わつています。美しい海と緑と眩しい島は、江田島も至近の距離に望めます。

お会いしたのは、島在住の宮崎佳都夫さん、元果職員家で朴訥な市井の郷土史研究家で、九月の五周年記念コンサートへのご出席もお願いしました。

似島には、收容所の遺跡は既に無く、わずかにドイッから送られた菩提樹の幼

木のみがあるだけでしたが、ユーハイムが広島県物産陳列館（現原爆ドーム）にバウムクーヘンを出品し、絶賛を博したり、捕虜と広島高橋カリー（現広島大学）とのサッカーの国際親善試合が、サッカー王国広島島の礎となったことは有名です。

翌日は、帰路途中に徳島の鳴門のドイツ館にも立ち寄り、ドイツ館などと今後の友好関係についての話ができたことも収穫であったと思っています。全国各地で自分達の歴史を大事にし、誇りをもち、新しいまちづくりに努められている方々が、おられる事実にて、我々も頑張らねばと思う旅となりました。

「似島（にのしま）俘虜收容所跡地」

大正フロイデ 事務局長 西村 東一

ようこそ！

五味先生



ソプラノ
前田 絳子

四月一日がやつてきました。
大正フロレド初コンサート
のモツレクを指揮して
下さる五味建先生、アンサンブルヴォーチェの指揮者で、宗教音楽をメインにご活躍との事。一体どのようなお方なのかと、内心ドキドキ、ワクワクしながらレッスン会場へ。西本先生のご紹介で、手提げ袋を持たれた初老のお方が壇上にお立ちになりました。柔和な面差、温かいお声、飾らない実直そうなお方。視線をこちらに向けられた時、サラサラ澄んだ水音が、お姿から湧き出ているようで、緊張感が次第に解れていきました。
今迄のレッスンのおさらいで、モツレクのNo.12・8・2・4・7を歌い、曲毎に一言ご指摘下さいました。背筋を立て、自然体であくびの延長上で声を前に出す。休符の一拍手前を大切に。言葉の意味を理解して歌う。やるだけ暗譜して、気持ちよく歌う。等々、二時間でのレッスンはまたたく間で逝けた。目標に向かつてそれぞれが、先生の指揮に溶け込もうと懸命でした。



大正橋の欄干の音符と
歩道に鍵盤 ♪

奈良にお住まいの先生は西區は知っていたが、大正區は知らなかったと。今年九月四日、音符も充分に読めない、結成して六年目の団員がいずみホールで先生の指揮のもと、高度なモツレクを全曲歌います。「みんなで歌う文化の街大正」としてきつと社会的に脚光を浴びる事でしょう。先生とはもう切っても切れないう深いご縁を頂いておられます。

大正區の入口、大正橋の欄干には第九の一節の音符が。車道と歩道の間の石柱にはメトロノームが刻まれています。もうウン十年も前から“歌う音楽の街”として大正區を見守り続けています。

お腹の底から発声するこゝとで身体と心のバランスがとれ体調は良好です。曲も一段高いハードルを目指します。明日への希望が湧いてきます。四声ハモること、自分の癖も見えてきます。

西本先生、諸先生方、役員の皆様方、そして、会員一人ひとりに感謝します。素敵な余生をありがとう。生き甲斐をありがとう。五味先生、ようこそ大正へおいで下さいました。

年嵩だと言って甘やかさないで、よろしくお願い致します。